

■令和6年1月5日 定例記者会見内容

- 1 日時 令和6年1月5日（金）11：00～11：40
- 2 場所 市役所本庁舎3階 第3委員会室
- 3 出席者 ○市長、副市長、総務部長、危機管理監、企画部長、地域創生部長、市長公室長
○酒田記者クラブ10社（山形新聞、荘内日報、読売新聞、河北新報、毎日新聞、NHK、TUY、SAY、YBC、YTS）
○コミュニティ新聞（記者クラブの承認により出席）

■市長発表事項

1 令和6年能登半島地震について

市長／令和6年能登半島地震についてです。1月1日に発生いたしました能登半島地震におきまして、亡くなられた方々のご冥福を心からお祈り申し上げますとともに、被災されたすべての方々にお見舞いを申し上げたいと思います。

いまだ被災地は余震が続いております。特に能登半島ではライフラインの寸断など、極めて過酷な環境下であります。酒田市としましては、要請があれば、最大限の支援を行いたいと思っておりましたところ、山形県の方から現地への派遣についての相談が内々に来ているという状況ですので、現在内部で検討しているところであります。

また、1月4日からは、災害義援金の受け付けも市役所で行っております。市役所本庁舎1階、各総合支所、地域福祉センター、社会福祉協議会八幡支部、松山支部、平田支部です。そして交流ひろばでも義援金の受け付けを行っております。また、酒田JC（酒田青年会議所）の方でも物資の支援を検討されているとお聞きしております。

酒田市における被害の状況でございますが、震度は最大震度4でございました。亀ヶ崎、飛鳥で観測をしております。

津波警報が、1月1日の午後4時22分に発令され、その後注意報に変わり、最終的には1月2日の午前10時、津波注意報も解除ということになりました。

実際の津波の観測でございますが、1月1日の夕方5時52分、飛鳥で0.4メートル。それから、1月1日の夜7時8分、酒田で0.8メートルということになっております。

避難者数については、最大の人数で2,224人。これは1日夕方の6時45分の時点でございます。幸いにも人的な被害、それから住宅等の被害は酒田市内ではございませんでした。

避難者の受け入れ、それから被害状況の確認等につきまして、市内の関係機関、関係者の皆様に大変なお力添えをいただきました。この場を借りてご尽力に心から感謝いたしたいと思っております。

また、山形県知事様や酒田市の交流都市である平泉町の町長様など、各方面からお見舞い激励のメッセージもいただいております。感謝をいたしております。

酒田記者クラブの皆様からも住民への注意喚起など報道していただきまして本当にありがとうございました。

なお、発災後1週間程度は、最大震度7程度の地震の発生の可能性があるという発表されておりますので、市民の皆様には引き続き警戒していただきたいと思っております。

記者／県から職員派遣について相談が来ているということですが、詳しく教えてください。

市長／まず、保健師の派遣について内々に相談が来ています。その後、行政職員の派遣についても内々に相談が来ました。

記者／今回の災害対応で課題点を挙げるとすれば、現状どんなことが考えられますか

市長／全般的には、大変首尾よく酒田市内の避難についてはできたのではないかと考えております。一斉の防災訓練を何年も積み重ねて参りましたけれども、とにかく逃げるということは徹底されていたようで、多くの方が避難の呼びかけに応じて避難をされて、これも訓練の成果だったかなと考えております。

一方で、津波警報の発令された範囲が酒田市全域というようなことが一時報道されておりました、大勢の方が避難されたということで、そこは津波警報に基づく避難指示の区域は当然沿岸部ということですので、そこは少し行き違いございました。今後、津波警報に基づく避難指示を出す場合には留意するというところで、反省をいたしましたところでございます。

記者／先ほど県から職員派遣の相談が来ているということでしたが、自治体で応援できるところが手を上げてほしいといというような、県が一括して取りまとめるというようなものでしょうか。

市長／県の方で、県職員、県内の市町村職員をまとめて派遣できないかというイメージのように把握していますが、まだ内々の相談ですので決まっています。

記者／まとまって一緒に現地に行くというようなことでしょうか。

総務部長／詳細はこれからだと思います。まず、どのくらいの人員を派遣できるのかということで、詳細は整理がつき次第ということになるかと思います。まず市としては積極的に派遣をしていきたいということです。

記者／派遣にはいろんなパターンがあると思いますが、例えば姉妹都市になっているとか、輪島市だと日本遺産の関係で交流がありますが、酒田市は自主的という状況ではなくて、今は最大限出せる範囲でという状態だということでしょうか。

市長／その通りです。

記者／今回の津波警報を受けて、ハザードマップの見直しなど考えているのでしょうか。

危機管理監／今回の課題は問題点として認識し整理を始めますが、ハザードマップについては問題点がなかったと思っていますので、今のところ計画はしていません。ただ、検討して必要に応じて修正をするといったところだと思います。

記者／先ほどの避難指示と避難者数に関してですが、沿岸部に出されたということでしたが、最大で2,224人ということで、今回の避難は津波警報という注意報から比べると大分

切迫度が高まっているような状況の中で、この2,224人という人数を市長はどのように評価されるのかという点と、避難指示が出たときは皆さん避難するのが原則だと思うのですが、この数は多かったのか少なかったのか、どのようにお考えになっていますか。

市長／人数だけではなくて、どの地域の方が避難行動を起こしたかにもよると思います。手元に正確な資料ございませんので、もしかしたら沿岸部の方はもう少し逃げた方がよかったかもしれませんし、また山側にいらっしゃる方は、逃げる緊急性はそんなに高くなかったけれども逃げたという方もいらっしゃるかもしれない。ちょっと数字だけでは、感想は言えないと思っております。どういった地域の方が避難されたのかをしっかりと把握した上で、今後に生かしていきたいと思えます。

記者／こういった警報クラスの災害があったときに避難をするということに関して、市民の心はどうあるべきだと市長は思われますか。

市長／津波警報が出たときに逃げるということは、市民に大分浸透しているのではないかとこのふう今回感じました。これも先ほど申しましたように、毎年、私どもの市では、一斉総合防災訓練、危機管理監を筆頭に、大変実践的な訓練をして参りました。特に昨年10月の防災訓練、市民の10%近くの方が訓練に参加したということがございましたので、津波警報が出た時或いは地震があったときには逃げるということは、市民の皆さんに浸透してきていて、訓練の成果かなと感じております。

記者／市長も地震当日から市役所にいられたと思うのですが、避難されてきた方と何かお話はされましたか。

市長／1日の夜遅くになってしまいましたけれども、市役所7階に避難された方に夕食を配るときに、大丈夫ですかとお声がけをしました。

記者／避難された方がどのようなことをおっしゃっていましたか、覚えていらっしゃれば教えてください。

市長／夕食、本当に非常食でしたが、お配りした時にありがとうございますというお言葉はいただきました。

記者／配られた食事はどのようなものでしたか。

市長／お湯を入れて作ったご飯、味のついていものでアルファ米です。

記者／市役所ではそういったものを常に備蓄しているということでしょうか。

市長／そうです。

記者／今回の地震の課題で出てきたものとして、避難者への避難指示のメールが届かなかったということで、現在その原因を突き止めていると思いますが、もし、今後このような警報や注意報が出た時の市民への情報伝達というのは、どのようにされていくのでしょうか。

市長／基本は今申し上げました通り、警報が出たら逃げる地域なのかどうかということ、住民の一人一人が事前に把握をしていただいて、逃げるべき地域の人が逃げてくださいということを徹底することかと思っております。

危機管理監／そういった警告とか警報は一つのツールでは駄目なんですよ。いろんなツールを併用しまして、何度でも何度でもやはり繰り返すと、それでお知らせをするということが大事だと思っていますので、引き続きそういった、処置をとっていきたいと思います。また、メールについても、それを対応されている方もおられますので、原因を究明して確実に届くような処置をしたいと思っています。

■代表質問

1 新年を迎えた年頭の所感について

記者／市長就任後初めて迎えた新年の年頭の所感を伺います。

市長／繰り返しになりますが、大変な出来事があった年頭年初でございましたけれども、職員の皆様、地域の皆様、市民お一人お一人の力で、何とか、酒田市内では大きな被害がなかったということで、大変ありがたく、すべての皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

その上で、今年の抱負と申しますか方向性でございますが、これは酒田市の広報の1月1日新年のごあいさつに書いてある通りですし、昨日の賀詞交歓会で申し述べた通りでございます。昨年からももちろん変わっておりません。人口減少をできるだけ緩やかにしながら、人が多少少なくても安心して豊かに暮らせるまちをつくる。

そのための方向性としましては、一つ目として、若い人が働きたいと思うような仕事職場を作っていく。これにつきましては、昨日少し具体的にお話したつもりですが、例えばIT事業者の皆さんが都会から大分酒田市に事務所を構えてくださっています。若い方たちが就職し始めております。地元にもIT企業さんがいらっしゃって、地元の若い人たちの受け皿になってくれていますので、そういったことを今年も進めていきたいと思っています。或いは、人口が減っておりますから、外の力、外貨外需、地域外の需要を取り込んでいかないと経済を支えていけません。来年度はクルーズ船も入港して参りますし、JRの方では羽越本線の100周年、陸羽西線が再開する予定です。それから4月から6月まではJRのキャンペーンもあるということです。また山居倉庫とその斜向かいの商業高校跡地の商業施設も着工の予定になっておりますから、昨年以上の観光客の方々がいらっしゃって経済を活性化してくれることを期待したいと思っています。

それから二つ目はすべての市民の社会参画ということで、女性もそうですけれども、65歳を超えた方も決して高齢者だと思わないで、どんどん働きたい人は働いていただけますように、障がいのある方も、外国人の方も働いていただいて、稼いでいただいて、本当に高齢で支援を必要とする人たちには、安心して暮らしていただけるようにしていくということでございます。

三つ目は、同じことですが、とにかく安心して生活できるまちづくりということで、広報の新年のごあいさつでは、買い物弱者に対する取り組みなどを挙げましたけれども、これを進めて参ります。

四つ目は、人口減少に対応して庄内全域で考え、デジタル技術を生かしてまちづくりを

進めていきたいというふうに考えております。洋上風力もございます。洋上風力で有望な区域にもなりましたので、それで人も来始めております。また、基地港湾に指定されることも今年期待したいと思えますし、何とか洋上風力に限らず、多様な電源が立地する地域でございますので、そのメリットを地元企業、或いは市民の皆様にも少しでも還元できる仕組みのめどを少しずつ立てていきたいというふうに考えております。

記者／今、陸羽西線の再開の話が出ましたが、2024年の再開は新たな見通しとして示されているのでしょうか。

市長／特に示されておられません、当初予定通りです。

2 「酒田のラーメンの日」について

記者／昨年12月16日に酒田商工会議所の方と一緒に宣言された、「酒田のラーメンの日」について、具体的にどのようなことに取り組まれる予定でしょうか。

市長／昨年12月16日土曜日にガーデンパレスみずほで開催されました感謝の会に参加をいたしまして、その席上で、ラーメン日本一を受賞した10月9日ですね、その日を「酒田のラーメンの日」に、そしてその周辺の1週間をラーメンウィークにしてはどうかというお話がその出席者の間で盛り上がりまして、その場で商工会議所の会頭、それから酒田のラーメンを考える会の代表副代表が話し合いをいたしまして、その場での宣言に至ったものでございます。

突発的なことでもございましたので、実はその場では具体的な策はなかったわけですが、現在では例えばラーメンの日、或いはラーメンウィークの期間中に日本一となった大会用のワンタンメンなど、特別なメニューが提供され、県内外のラーメン愛好家の皆さんが酒田に来てくださるといようなことがあれば、本市への観光誘客に繋がるかなと思いますので、これからラーメンの会の皆さん、それから経済界の皆さんと話し合っ具体的内容を決めて参りたいと考えております。

記者／特別なラーメンが提供されるというのは、例えばイベントの開催とかそういうことを前提としているということでしょうか。

市長／そうですね、ラーメンエキスポが今年も開かれるのであれば協力もしていきたいですし、また昨年山居倉庫において期間限定で大会用のワンタンメンが提供されておりました。そういったようなことが、市内の各お店でできれば人が集まってくるのではないかと、そんなイメージでおります。

記者／山形県で「ラーメン県そば王国やまがた」ということで商標登録申請をしたり、山形市の方でも「ラーメンの日」というのを定めるらしいですが、こういった山形全体でラーメンを盛り上げていくことについては、市長はどのようにお考えでしょうか。

市長／大変うれしく、ありがたく思っております。酒田のラーメンが日本一になった後に、吉村知事が「ラーメン県そば王国」の商標登録を発表されたように記憶しておりますので、山形県全体で山形市とも一緒にラーメンをPRしていければいいと思っております。

■フリー質問

特になし